



下水管路のマネジメントと管診協の活動

一般社団法人管路診断コンサルタント協会 会長 山崎 義広

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。旧年中は格別のご愛顧を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置付けが5類へ移行したことを受け、一般社団法人管路診断コンサルタント協会（管診協）の活動も、新型コロナの感染防止に十分留意しながら、コロナ禍以前と同様に活発な事業を展開いたしました。講習会等で会場参加を可とし、同時にWe bでも参加できる併用型で東京、水戸、富山で実施しました。また、下水道展'23札幌へのブース出展、マンホール管口点検の新技术「管診鏡」の販売・普及活動、「下水道管路

施設改築・修繕に関する設計委託業務標準歩掛(案)―令和3年版」などの販売、日本下水道新技术機構との「管渠の長寿命化に資する診断等に関する共同研究」への参画など、下水管路の改築・修繕に資する事業を積極的に実施してまいりました。また、当協会発足以来、主に下水道管路構造物の診断・補修・更生工法等に関する情報収集および技術評価に取り組んできましたが、令和6年4月からの国土交通省における上下水道行政の所管一元化を踏まえ、水道委員会を発足し活動をスタートしました。

上下水道施設は衛生的でかつ快適な都市生活には欠くことのできない重要な社会インフラではありますが、

施設の老朽化や人口減少社会の到来など取り巻く環境は一層厳しさを増しています。また、ウォーターP P Pの施策が公表され、今後、管診協としても取組み姿勢を明確にしたさまざまな活動を展開していく所存です。下水道管理者におかれましては、下水管路施設の改築・修繕の調査・計画策定を行われる際には、私ども賛助会員を含みます下水管路の専門家グループである管診協会員をぜひご活用いただきますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

本年も引き続き変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。